

2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 最終戦
第47回 MFJグランプリ スーパーバイクレース in 鈴鹿
三重県・鈴鹿サーキット (1周=5.821km)

■大久保光 ST600 予選4番手(タイム:2分14秒262) 決勝:3位

☆シリーズランキング:3位

■伊藤和輝 ST600 予選:20番手(タイム:2分17秒834) 決勝:12位

☆シリーズランキング:14位

■岡崎静夏 J-GP3 予選:10番手(タイム:1分38秒947) 決勝:DNF

☆シリーズランキング:13位

天候: 2015年10月31日(土) 晴れ コース:ドライ

11月1日(日) 曇り コース:ドライ

観客動員数: 23,500人(2日間合計)



39	大久保 光 Hikari Okubo class : ST600 machine : Honda CBR6000RR
40	伊藤 和輝 Kazuki Itoh class : ST600 machine : Honda CBR6000RR
22	岡崎 静夏 Shizuka Okazaki class : J-GP3 machine : Honda NSF250R

大久保が2戦連続表彰台を獲得! 若手ライダーがそれぞれ成長した2015年

2015年シーズンは、早くも最終戦を迎えた。今年も舞台は三重県・鈴鹿サーキット。事前テストがなかったため、木曜日に特別スポーツ走行が設けられ、いつもより1日早い走り出しとなっていた。

前戦の岡山国際でトップ争いを繰り広げ表彰台に上がった大久保は、ホンダに優勝をもたらそうと鈴鹿入りしていた。7月に行われたアジアロードレース選手権SS600クラスにスポット参戦していたが、そのときはタイヤがダンロップ、コンディションも違うため、データは役に立たなかった。何より、それからトレーニングしてきた大久保の成長の方が大きく、鈴鹿を楽しく走れるようになってきた、と初日に語っていた。しかし、レベルが上がってくれば、また違う壁にもぶつかる。マシンセットに悩みながら、セッション毎にタイムを縮めて行く。全日本2年目の伊藤、J-GP3クラス岡崎もマシンセットを進めて行った。

ST600クラスの公式予選は、今回もQ1で上位12名のAグループ、13番手以下のBグループが決まり、Q2で、それぞれのグループの

順位でグリッドが決まる方式で行われた。大久保は、Q1のワンアタックで2分14秒595を出し2番手につけたが、伊藤は、セクター3まで自己ベストで来ていたものの、最終セクションで他車と絡んでしまい大幅にタイムをロス。まさかの23番手に沈んでしまう。続くQ2では、大久保は2分14秒262とタイムを縮めるがポジションは4番手となる。伊藤もタイムを縮め20番手。岡崎は、自己ベストを更新する走りでも10番手と、いよいよシングルフィニッシュも目前に迫ってきていた。



日曜日、最初のレースとなったST600クラス。12周で争われたレースで大久保は、好スタートを切り、オープニングラップの110R進入で3番手に浮上。レース序盤から大久保を含む4台がトップグループを形成。レースも折り返しとなった7周目のシケインで前を走っていたライダーが転倒。さらに大久保は、8周目にデチャ選手をかわし2番手に浮上する。しかし、9周目にデチャ選手に抜き返されると、かわすポイントを探りながら最終ラップを迎える。何とか前に出たいところだったが、うまく抑え込まれ3位でゴール。それでも2戦連続で表彰台とホンダ最上位の結果を残した。



伊藤は、追い上げのレースを見せ12位でゴール。J-GP3クラスの岡崎は11番手辺りでバトルを繰り広げていたが、6周目のデグナーカーブ2個目立ち上がりでハイサイド転倒。悔しいリタイアとなってしまった。

大久保 光 コメント

「600に慣れていたこともあり、2戦連続で3位表彰台に上がったことは、うれしいですが、やはりホンダとして一度も優勝できなかったことは申し訳ないと思っています。今シーズンは走ることができるか分からないところを多くの方のご支援のおかげでST600クラスを戦うことができました。チーム、そして応援してくださった皆さんに感謝いたします」

伊藤 和輝 コメント

「予選Q1ではセクター3までベストで来ていたのですが、130Rで他車に引っかけた約2秒もロスしてしまったのが痛かったです。決勝も集団を抜け出して前を追いしましたが、追い切れずに終わり予選グリッドの大切さを改めて感じました。今年はST600クラスを走らせてもらい、集中することの大切さを始め、多くの事を学ばせていただきました。この経験を今後に生かしていきたいです」

岡崎 静夏 コメント

「最後にもつけない転倒をしてしまい悔しいですが、攻めて行った結果です。今シーズンは、ようやく全日本ライダーとしてレースが少しはできるようになってきたと思います。もっと走りの精度を上げて、レース展開をうまく運ぶことを考えれば、もっと上を狙えるはずです。シーズオフにしっかりトレーニングをして、来シーズンは表彰台を目指して頑張りたいと思っています。今シーズンも支えてくださったチームを始め、応援してくださる皆さんに感謝いたします。ありがとうございました」

小原 育 監督コメント

「最終戦にして、全員いい形でレースを戦えたと思います。岡崎は転倒となりましたが攻めた結果です。それぞれが成長できたシーズンになったと思います。大久保はST600で1年目ながらランキング3位、伊藤も着実に成長していると思います。こうしてレース活動ができるのも応援してくださる皆さんのおかげです。本当にありがとうございます。来シーズンも頑張っていきますので、引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます」